

事業概要シート (■事務事業 □補助金等事業)

事業名称	科学館事業			事業種別	直営	担当部課	大津市科学館			事務事業No.	7		
事業期間	平成4年度 ~ 継続			記入者	次長 角 広司								
事業の経緯	昭和25年に教員研修を目的とした教育研究所が発足し、昭和45年ににおの浜に大津市立科学館が建設された。その後、平成4年に本丸町に次代の社会を担う心豊でたくましい子ども達の育成を図るとともに、市民が充実した人生を送ることを目的として、婦人会館、科学館、教育研究所、大津少年センター、視聴覚ライブラリーを総合的に整備した生涯学習センターが完成し、学習事業、研修、情報提供を行い、市民の生涯学習の拠点となった。				根拠法令	なし							
					根拠条例	大津市生涯学習センター条例 第3条							
					必須業務の有無	なし							
事業目的・事業の位置づけ(首長公約、マニフェスト、総合計画、緊急度など)	本市における、青少年の科学への興味・関心を高め、理科教育の振興を図るため、自然科学に関する実験・観察の学習、プラネタリウムの投影、天文ドームでの天体観測を指導、科学に関する展示等の事業を行っている。 (総合計画第1期実行計画 方針02-政策03-施策01-視点01)				これまでの成果	成果の内容	事業の目的が生涯学習及び青少年の科学教育育成等で成果の確認が困難であるが、来館者は増加している。						
						活動指標名	科学館事業の回数						
事業概要・施設概要 (補助金の場合は、補助率・算出根拠・限度額、対象者など)	・児童生徒や一般市民の科学への興味関心を育て、科学知識の普及向上を図るため、「サイエンスフェスタ」、「わくわくサイエンス」、「星を見る会」、「太陽黒点観察」、「親子ネイチャースクール」など各種行事を実施。 ・市内6年生を対象に科学館移動教室を実施し、小学校における理科教育の集約として実施。 ・青少年健全育成に資する事業として科学クラブの育成事業を実施。 ・市民の宇宙への興味関心を高め、青少年健全育成に貢献するとともに、小中学生の天体に関する学習を行い、正しい宇宙観の育成を図るため、プラネタリウム事業を実施。 ・科学館運営協議会を開催し、科学館の方向性について協議を進めてきた。 ・生涯学習センター内にプラネタリウム、展示ホール、化学実験室、工作室を保有。				対象者の状況	指標の推移	単位	H19実績	H20実績	H21見込	目標値(H22)		
						回	190	159	120	120			
						成果指標名	展示ホール・プラネタリウムの入場者数						
						指標の推移	単位	H19実績	H20実績	H21見込	目標値(H22)		
【収入】	千円	H19実績	H20実績	H21見込	対象者の推移	単位	H19実績	H20実績	H21見込	目標値(H22)			
	使用料・手数料					人	—	—	—	—			
	国支出金(補助率)												
県支出金(補助率)					民間委託	委託の現状	なし						
その他(観覧料)		6,479	6,693	6,600		受け皿の存在	(例)京都市青少年科学館→京都市青少年科学センター 神戸市立青少年科学館→大阪ガスビジネスクリエイト(株)・大阪ガスセキュリティサービス(株)						
収入合計		6,479	6,693	6,600	市における類似事業	将来の動向							
【支出】	千円	H19実績	H20実績	H21見込		委託の現状	なし						
人件費	正規職員	従事人数(人)	5.0	4.0		2.0	近隣・同等規模等の都市の状況	受け皿の存在	(例)京都市青少年科学館→京都市青少年科学センター 神戸市立青少年科学館→大阪ガスビジネスクリエイト(株)・大阪ガスセキュリティサービス(株)				
		人件費	41,500	33,600		16,800		市における類似事業	なし				
臨時・嘱託・再雇用職員	従事人数(人)	4.0	5.0	9.0	近隣の政令指定都市では京都市、大阪市、神戸市、名古屋市、姫路市等が複数階を有する独立した建物の科学館となっている。また、大津市と同等規模の中小都市として、天文ドーム、プラネタリウム、展示ホール、化学実験室、工作室等を備えている施設は少ない。	廃止したときの影響		県内唯一の施設となっていることから存続が必要な施設である。					
	人件費	10,458	12,653	15,871				その他特記事項(事業仕分けにかけた理由、議論して欲しい点、留意事項など)	展示ホールの展示品やプラネタリウム等については経年劣化や陳腐化しているものもあるので、科学館運営協議会や市民の意見を聴きながら、今後の科学館のあり方も含め科学館更新計画を策定予定である。				
事業費(予算・決算)		47,797	46,148	44,192									
支出合計		99,755	92,401	76,863									
【収支】	千円	H19実績	H20実績	H21見込									
一般財源充当額		93,276	85,708	70,263									
対象者あたり一般財源充当額		0	0	0									
主な事業費(H21見込)	事業名称	事業概要	事業費	国、県の補助金の動向	なし								
	プラネタリウム関係事業	小学校移動教室・団体投影・一般投影・季節特別番組投影・星を見る会・機器リース費等	24,713	廃止したときの影響	県内唯一の施設となっていることから存続が必要な施設である。								
	展示ホール更新充実事業	青少年の教育施設として体験学習の場の提供・機器の老朽化や学習内容に対応する展示物の更新	13,144		その他特記事項(事業仕分けにかけた理由、議論して欲しい点、留意事項など)	展示ホールの展示品やプラネタリウム等については経年劣化や陳腐化しているものもあるので、科学館運営協議会や市民の意見を聴きながら、今後の科学館のあり方も含め科学館更新計画を策定予定である。							
	科学館事業	小学校移動教室・わくわくサイエンス・太陽黒点観察・星を見る会・親子ネイチャースクール等	3,720										
科学クラブ育成事業	少女少女発明クラブ・環境科学クラブの育成	335											